



るつ記記念基金だより

ご支援を感謝します！

今年度もうれしい卒業感謝のメッセージをいただきました。2018年度奨学生リチェル(教育学専攻)はコロナ感染症下で大学が閉鎖され不自由な生活が強いられる中、生活の困窮や不自由な在宅学習を超えて卒業証書を手にすることができました。



2022年7月31日

るつ記記念基金の皆さまへ

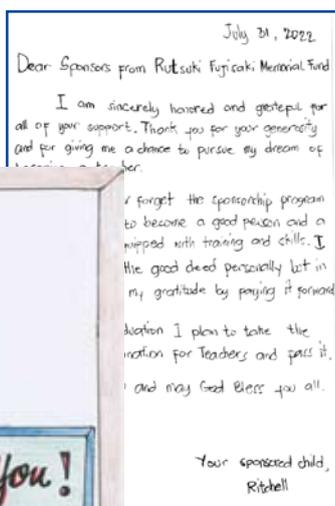
親愛なるスポンサーの皆さま、わたくしは心から光栄に思い、感謝しております。

皆さまのご支援、誠にありがとうございます。教職に就くという夢を追いかける機会を与えていただきました。わたくしを善良な人間に、そして訓練とスキルを備えた素晴らしい学生に育ててくださったスポンサーシップのプログラムを決して忘れません。

個人的には報いを皆さまに恩返しをすることはできないかもしれませんが。しかし社会の中で他の人々へ実りをお返しする恩送りをして感謝の気持を表します。

卒業後、教職国家試験を受け合格を目指します。ありがとうございます。神さまのご加護がありますように。

皆さまの奨学生 リチェル



卒業感謝メッセージ



RFMF提供のパソコンで在宅学習



前列右端が島田信子牧師
奨学生にバースデイカードをお贈りしている女性グループ
「麦の会」の2022年秋のバザー準備会でパチリ。

皆さまには変わらぬ愛の中で「るつ記記念基金」にお祈りと、尊いご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの猛威の中で、対策する事が当たり前の日常になって参りました。コロナウイルスだけでなく、世界中では様々な気候変動、異常気象、環境問題、貧困、紛争、人種、人権等の多くの問題に直面しています。

それらの問題を世界的に考えていこうと、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された「国連ミレニアム宣言」を機に、2015年の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で具体的に提唱されました通称SDGs（持続可能な開発目標、「エスディー・ジーズ」と読みます。）は世界中にある環境問題、差別、貧困、人権問題などの課題を2030年までに解決していこうと17の目標が掲げられ、現在、世界的に取り組まれています。日本に於いても会社、学校で積極的に取り組むところが増え、社会に浸透しつつあります。

るつ記記念基金の活動は、SDGsの目標1、貧困（あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる）と目標4、教育（全ての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する）という項目に、まさに関連しています。世界的にこの動きがますます盛んになり、世界中で弱い立場の方の力になることを願っております。

39年間るつ記記念基金をお支えいただいた「チャイルド・ファンド・ジャパン奨学生支援制度」が今年度で終了することになりました。終了を見据え、チャイルド・ファンド・ジャパンの松浦宏二次長のご指導ご支援をいただきながら、3年間の準備期間を経て、直接支援方式であるノートルダム・ダディアンガス大学（NDDU、3頁及び6～7頁参照）方式へ無事に移行することができました。心より感謝申し上げます。チャイルド・ファンド・ジャパンには39年間の長きにわたり、るつ記記念基金の活動をお支えいただき、言葉では語り尽くせない程、感謝しております。心より御礼申し上げます。

今年度より新たに運用がスタートするNDDUから5名の新しい奨学生が与えられました。5年間で500万円の支援を約束しています。これにより累計145名のフィリピン各地の青年を支援することができました。

今までも、そしてこれからもこの素晴らしい活動を続けていけるのは、皆様からのあたたかいご支援と、お祈りによるお支えをいただいているからにほかなりません。また、チャイルド・ファンド・ジャパンの武田勝彦事務局長、松浦宏二次長、そして職員の皆様、また、日本聖書神学校神保望校長、柳下明子教授のご教示、ご支援にも心より感謝いたします。

るつ記記念基金の活動がSDGsの輪と共にますます広がり、フィリピンをはじめ、世界中の貧困層の方々への助けとなり、それが世界の平和へと繋がっていきますよう、心より願い祈ります。

2022年度新奨学生

注：()内は専攻

NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン(以下「CFJ」と略)のご指導を得て、日立教会が直接奨学生を支援する新方式の検討を進め、今年第1期の新奨学生5名(①～⑤)が与えられました。全員ミンダナオ島ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダディアンガス大学の学生で地域の低所得層出身の青年が選抜されています。(6～7頁に経緯)毎年100万円を5年間贈呈する計画の初年度となります。どうぞ、新しい方式による支援に関心を持っていただき、お祈りとお支援をお願いいたします。



どこまでも美しい
ミンダナオの海

多くの貧しい人々の
暮らしは厳しい



①ジョン(生物科学)



成績優秀で、演劇にも参加したりボーイスカウトの指導も行っている。父親は建設現場で働く。以前は地域のショッピングモールで働いていた。

②マリソーレ(医療工学)



数学オリンピック選手。ジャーナリズムや10代支援活動、文書編集等の経験あり。

父親は肢体不自由で電気技術者。

③ヘイゼル(医療技術)



GKK(労働者、職場、地域社会の安全と健康のニーズを議論する会)ボランティア。

父親はトライシクルドライバーだが病気がち。母親はコロナ禍以前は小売業を営んでいた。姉妹も働いている。

④アシュリー(初等教育学)



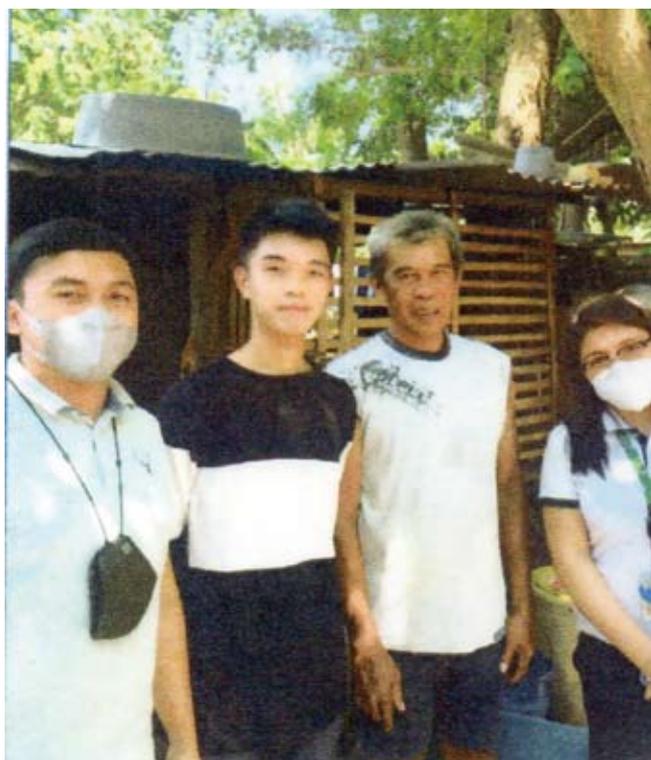
成績優秀で、CFJのスポンサーチャイルドだった。教会ボランティアも務める。

父親は労働者、母親は病気を患っている。

⑤アンナ(経営管理)



家族で最初に大学進学した。父親は亡くなっており兄弟の年金の支援や自身の缶詰工場や服飾店などで働いて家族を支えていたが、1年休学もした。



奨学生候補者選考過程で両端の大学と支援センター担当者がジョンとお父さん(中央)を家庭訪問し面談

卒業生たち／新しい家庭学習に取り組みながら

大学の授業が教室での対面から家庭でのオンラインが中心となったため、専用の子供部屋を持たないほとんどの奨学生は、家の片隅や軒先や庭など、それぞれ工夫しながら場所を確保し、家事をも分担し、RFMFから提供されたオンライン機器なども利用しながら学び続けました。2018年度奨学生から家庭学習の様子や誇らしげな卒業写真、感謝のメッセージなどをいただきました。

アイリッシュ (経営管理学専攻)
庭で勉強！雨が降ったらどうするの？
洗濯は手で？



ジェイヴィ (医療工学専攻)
父親が病気がちのため母親が唯一の稼ぎ手として米作りや豚の飼育をしたりしたが収入は少なくRFMFの支援に心から感謝している。彼女も家庭学習の日々でした。バースデイカードへのお礼状をいただきました。



親愛なる るつ記記念基金の皆様へ

こんにちは！私はまさに今、皆さまや皆さまのご家族がお元気で健康でいらっしやることを願っています。

私の記念日を覚えてくださり、ありがとうございます。バースデイカードもうれしいです。

過去数年にわたり、私の教育に携わってくださったことに感謝しています。この数年間、皆さまからの多大なるご協力とご支援に大変お世話になりました。パンデミックであるにもかかわらず、家族や友人と誕生日を祝うことができ、とても嬉しく幸せです。

改めて、感謝を申し上げます。そして皆さまと皆さまのご家族に、いつも神様の祝福がありますように。

2022年2月

皆様の奨学生 ジェイヴィ
(訳：川井由莉)

奨学生の現状(心こめて皆さんを応援します)

*今年度支援する奨学生は16名で、合計210万円の奨学金を贈呈しました。多くの皆さまの温かいご支援で、基金創設以来39年にわたり、累計145名を支援し奨学金累計は3234万円に達しました。引き続きのご支援とお祈りをよろしくお願いいたします。

*奨学生の内訳は、ネグロス島のドウマゲッテイ市にあるシリマン大学神学生6名、今年度で支援を終了するチャイルド・ファンド・ジャパン推薦の5名、今年度からの新方式によるミンダナオ島ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダディアンガス大学の5名(3頁)です。

*今年度新奨学生以外の奨学生たち11名を以下に紹介します。

島別奨学生分布

():2022年10月までの累計人員、合計145人。



【凡例】

採用年度

名前(専攻)

2018年度



ジョエウィン(神学)

2019年度



ジュニロン(電気工学)



カイル(農学)



レズ(犯罪学)



アイバン(土木工学)



ミカ(経営管理学)



ヘセド(神学)



ヨナ(神学)



2021年度



アビゲイル(神学)



ジェフリー(神学)



ジェリー(神学)

◎お陰様で卒業いたしました。⇒ 2018年度奨学生のジェイヴィ(医療工学)、アイリッシュ(経営管理学)、リチェル(教育学)、2019年度奨学生ダイアナ(医療工学)の計4名が卒業しました。

新たな支援先が与えられました ～ノートルダム・ダディアンガス大学～ (NDDU)

日立教会 金丸公春

1983年のるつ記記念基金の発足以来、チャイルド・ファンド・ジャパン(CFJ)にはその前身の基督教児童福祉会(CCWA)から39年の長い間ご支援とご指導を頂いてきましたが、今年度(2022年度)をもって終了することになりました。それに代えて新たにミンダナオ島ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダディアンガス大学の大学生を直接日立教会のるつ記記念基金委員会が支援していくことになり、このほど新奨学生5名が与えられ支援を開始しました。ここでは、これまでの経緯を簡単に報告します。

1. 背景

これまでのるつ記記念基金の活動は、ご支援いただいている皆様から捧げられた募金を日立教会が運営管理し、各奨学生への直接的な業務はもっぱらチャイルド・ファンド・ジャパン(CFJ)および日本聖書神学校の働きに支えられて現在に至っています。このたび、るつ記記念基金の発足当初から39年もの長い期間お世話になったCFJを通しての活動が今年度(2022年度)をもって終了することになりました。CFJには、その後のるつ記記念基金の活動についてもご指導・ご提案頂き、新たにノートルダム・ダディアンガス大学の学生への支援の道が与えられました。

2. ノートルダム・ダディアンガス大学の概要

ノートルダム・ダディアンガス大学(NDDU)は、ミンダナオ島のジェネラルサントス市の中央に位置する学生数：約8000人の総合大学です。



ノートルダム・ダディアンガス大学(NDDU)

この大学に付属のビジネス・リソース・センター(BRC)は、CFJの現地の協力パートナーでもあり、実はCFJを通して同大学の学生をるつ記記念基金の奨学生として支援してきた関係にもあって、2011年8月には日立教会の9名が訪

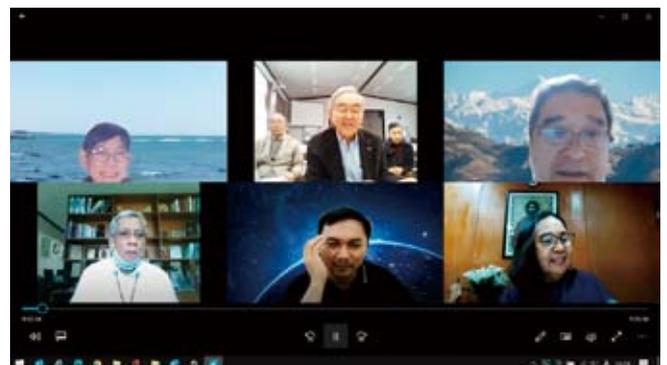
問して当時の奨学生やスタッフの皆様と交流した経緯があります。今回の新たな支援についてもBRCにご尽力頂きました。



2011年8月のBRC訪問時の集合写真

3. 打合せの経緯

2020年11月以降、CFJのご指導を頂きました。折しも新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりにより、対面での打ち合わせができず、もっぱらインターネット経由のリモート・ミーティング(Zoom)を重ねました。



NDDU, BRC, CFJとのZoomミーティング(2021.10.19)
(下段：NDDU学長、奨学金事務担当、BRC代表
上段：(左・中央)：日立教会、CFJ松浦次長)

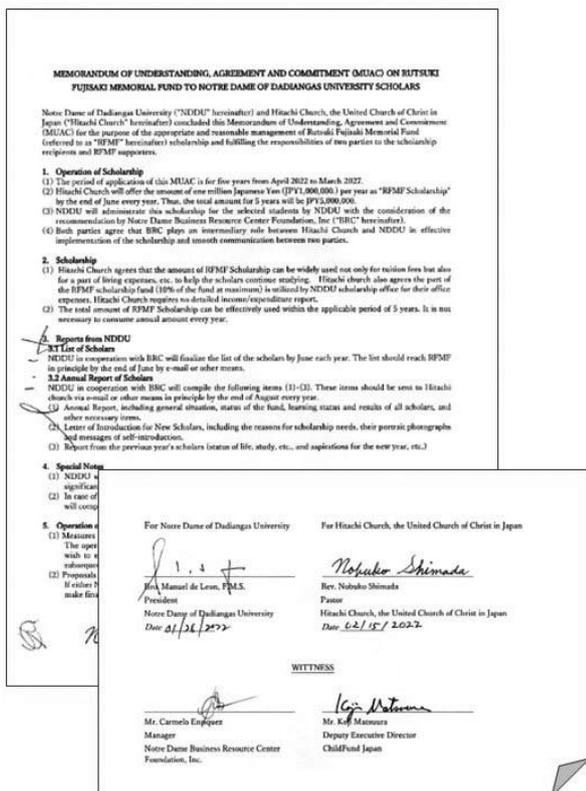
2021年5月からはNDDUの前学長、BRCの代表、およびCFJの松浦次長とのミーティング、同年10月19日には現学長と共にNDDUの奨学金事務の担当者も加わった打ち合わせにより覚書作成に至りました。

4. 覚書の取り交わし

前述のインターネット経由のZoomミーティングを通して、NDDUには「るつ記記念基金」の趣旨とこれまでの活動を説明してご理解いただきました。NDDUの学生への支援にあたっては、日立教会からNDDUに直接に進める方式とするため、まずは、「るつ記記念基金」としての希望事項を整理して話し合い、了解を得ることができました。その内容を要約すると次の通りです。

- ①支援金額と期間
(毎年100万円を5年間提供)
- ②奨学生の募集、選抜、運営はNDDUが実施
- ③奨学金は授業料等の学費に限らず必要により生活面の支援にも使用可能
- ④各奨学生についての年間報告の作成・報告

これらの希望事項の協議内容が元となり、合意書として覚書にまとめて取り交わすことができました。2022年2月に郵送のやり取りにより双方(NDDU学長および日立教会牧師)と証人(BRC代表およびCFJの松浦次長)の署名が行われました。



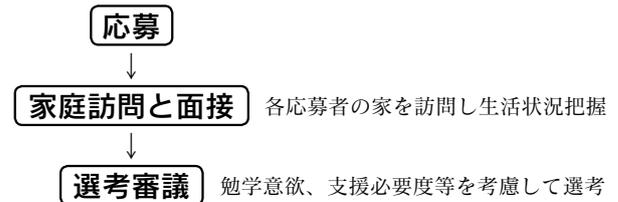
取り交わされた覚書

5. 奨学生の募集と選考

NDDUとBRCは日立教会と取り交わされた覚書に基づいて、第1回目の「るつ記記念基金」奨学生の募集と応募者からの選考作業を実施しました。

募集にあたっては、るつ記記念基金の創設された背景や支援金額、期間が示され、藤崎るつ記さんの思いや支援者の皆さまの気持ちを伝えてくれています。

奨学生の選考は、次のステップで実施されました。



これらの選考プロセスを中心になって担ってくださったスタッフの皆さんと訪問結果の一例です。



家庭訪問のレポートの一例

6. 支援の開始

8月から始まる2022-2023年度から新たにNDDUの5名の学生に対する支援が開始されました。新しい取り組みによるNDDUの奨学生の方々については3頁をご覧ください。

以上、皆様のご支援に感謝して報告します。

インフォメーション

NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン支援終了へ 39年間のご指導に感謝

1983年以来39年の長きにわたってご指導、ご支援をいただいていたNPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン(CFJ)によるフィリピンの大学・高等教育を受ける学生への支援を2022年度をもって終了します。当時、誰がこのような活動が企画され39年にも及ぶと想像できたでしょうか？藤崎るつ記さんの事故死という混乱の中で、当時のルーテル神学大学の長谷川教授が発案され、CFJの前身であるキリスト教児童福祉会(CCWA)の皆さまが未熟な地方の小さな教会を愛の忍耐をもって導いてくださいました。そして今年度2022年からCFJの全面的なご支援の下ミンダナオ島・ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダディアンガス大学学生を日立教会が直接支援する方式の立ち上げをも支援してくださいました。(6～7頁)今、39年の旅路を思い起こし、いただいた恵にどのような感謝(Thank you! 39?)の応答をしていこうかと思いを巡らしています。

2010年度奨学生ジュリエルの授手礼報告

ジュリエルは2013年にシリマン大学神学部を卒業しボホール島タグビララン・フィリピン合同教会に赴任。2022年3月11日に同教会にて授手礼を受け正教師に就任したと、本人から感謝のメッセージをいただきました。
“Thank you to RFMF Hitachi Church because of your help I graduated from the seminary.”
【訳】「日立教会RFMFの皆様のおかげにより神学校を卒業できました。ありがとうございます。」
(ご家族との記念写真、中央左が本人)→

フィリピンのジャーナリスト ノーベル平和賞受賞

2021年12月10日、ノーベル平和賞の授賞式がノルウェイのオスロ市庁舎で開かれ、フィリピンのネットメディア「ラッパー」代表のマリア・レッサさん(58)にメダルと証書が贈られました。マリアさんは受賞演説の中で「私は記者であるだけで、残りの人生を牢獄で過ごすかもしれない脅威と共に毎日を生きています」と厳しい政府による言論侵害の現状を報告し、その上で「さあ、私たちが望む世界をつくる時です。目を閉じて、平和と信頼、共感のある世界を想像してください。一緒にその世界を実現しましょう。」と呼びかけました。

世界は今、暴力、貧困、飢餓そして感染症の危機の中で、弱者とされた人々はなすすべもなく深刻な困難の中に放置されているかのようです。マリアさんの受賞を喜ぶとともに、ジャーナリストや人権活動家などが選択した生き方に敬意を表し、私たちの奨学生が学び生きるこの国の現状と未来に注意と関心を注いでいきたいと思います。



*委員会から：☆CFJからの長い間のご支援をいただきました。今年度からノートルダム・ダディアンガス大学の奨学生支援が始まりました。リモートでの打ち合わせでしたが、CFJの松浦さんのご協力にも支えられて、最初の奨学生が決まりました。未来のフィリピンを担う若者たちの成長の様子をこれからも見守ってください。(書記:青野友祐)
☆今回簡単に報告した通り、私たちの「るつ記記念基金(RFMF)」には新たにノートルダム・ダディアンガス大学(NDDU)への支援の機会が与えられました。もっぱらインターネット経由のリモート会議やメールでの話し合いでしたが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中でも実現できたことに感動を覚えます。ICTの恩恵を大切に活用しつつ相互理解を深めていきたいと思います。(ICT担当:金丸公春)

☆COVID-19の流行が始まりもうすぐ3年が経とうとしています。様々な制限が徐々に解除され、以前の日常が戻ってきたように感じます。私の通う大学では、対面授業が全面的に行われ、日々喜びを感じつつ勉強に励んでいます。フィリピンでは、未だ不安定な状況が続いている中、目標に向かって努力している姿を見て、自分もより一層努力しようと思いました。(鈴木大智)
☆今年度は、チャイルド・ファンド・ジャパン、シリマン大学に加えてノートルダム・ダディアンガス大学にも奨学金をお送りすることが出来ました。皆様の変わらぬ暖かいご支援に心から感謝申し上げます。又、今年度で奨学金を終了するチャイルド・ファンド・ジャパンの皆様には基金発足以来大変お世話になり感謝です。(会計:菅原卓子)

☆るつき記念基金奨学生の名簿と奨学生へのクリスマスカードの作

成を担当しています。奨学生は今年度で145名になりました。チャイルド・ファンド・ジャパン117名、シリマン大学23名、ノートルダム5名です。教会の女性グループ「麦の会」担当の誕生カード作成もお手伝いしております。カードによる奨学生との交流も日立教会にとってはうれしいことです。(百瀬義広)
☆リチェルが「恩送り」(Pay it forward)とっていました。(1頁)僕らが卒業した時にはそんなことは考えたことも、言ったこともなかったですね。フィリピンの貧しい地域でそんな思いを胸に卒業し社会に出る彼女には、まず自分のため、家族のため、そして地域の人々のためにとの順に着実に活躍してほしいなと思います。(委員長:和田 直)

るつ記記念基金だより 第38号

2022年11月13日発行

編集:るつ記記念基金委員会
発行:日本キリスト教団日立教会

〒317-0064 茨城県日立市神峰町4-14-7
TEL 0294-21-4565 FAX 0294-23-3367
URL <http://hitachi-church.justhpbs.jp>
郵便振替 口座番号/00300-9-15365
日本キリスト教団日立教会るつ記記念基金